

防蟲科學

第 四 號

財團法人防蟲科學研究所

京 都 帝 國 大 學 內

昭和十五年十一月

目 次

論 說

- | | | |
|---|---|----------------------------|
| 製本用「クロス」の防蟲防鼠加工 | 京都帝國大學教授 農學博士
京都帝國大學農學部昆蟲學研究室
京都帝國大學化學研究所 研究員 | 武居 三吉
山田 保治… 1
宮島 式郎 |
| 「クロス」の害蟲「ナミゴキブリ」に就きて | 京都帝國大學農學部昆蟲學研究室 | 山田 保治… 4 |
| 生絲の蟲害防除に關する試験 | 京都府立織物試験場
地方商工技師 | 櫻井 秀雄… 8 |
| 「イガ」に就きて | 京都帝國大學農學部昆蟲學研究室 | 山田 保治…14 |
| 羊毛害蟲の蝕害と溫度との關係(第二報) | 同 | 山田 保治…21 |
| 羊毛害蟲の蝕害と溫度との關係(第三報) | 同 | 山田 保治…26 |
| 「ヒメマルカツラブシムシ」の攝氏12度定溫飼育に於ける
産卵と孵化 | 同 | 山田 保治…31 |
| 「フランスギク」花に集來する「ヒメマルカツラブシムシ」
成蟲の數と其れが捕殺に關する考察 | 同
同 | 山田 保治…35
谷口 久代 |

抄 譯

- | | | |
|---------------------|---------------|----------|
| 「コイガ」幼蟲が通過し得る間隙の最小限 | 京都帝國大學教授 農學博士 | 春川 忠吉…46 |
|---------------------|---------------|----------|

通俗防蟲科學

- | | | |
|---------|---------------|----------|
| 南京蟲新驅除劑 | 京都帝國大學教授 農學博士 | 武居 三吉…47 |
|---------|---------------|----------|

編輯後記

財團法人防蟲科學研究所總則及役員

編 輯 後 記

防蟲科學研究所の仕事も順調に進み、今度の號は羊毛關係以外の記事も登載し、大分誌面を賑はすことが出来た。

以前から希望して居た「クロス」の防蟲加工も、今回之を工業化し得たことは同慶に堪えない。製本用「クロス」が海外へ向け輸出される數も、相當な額に達するそふであるから、之が防蟲加工の必要なることは今更ら言ふまでもない。

世界平和確立の目的を以て、日、獨、伊の三國は同盟を結んだ。吾々國民は從來よりも尙ほ一層の難關を突破する覺悟がなくてはならぬ。之が達成には、各自がそれぞれの持場を、國策に順應して、間違ひのないやうに遂行することが、最も大切な心掛であると思ふ。吾々常に羊毛を對象として研究を進めて居る者に取りては、國策上重要物資の一つである羊毛を、如何にしてでも大切にしなければならぬと云ふことを、此際一層痛感させられる。

羊毛の代用として生れた「ス・フ」は弱いけれども、蟲が食べないから良いなどと、最初言はれて居た。處が、遂先日のこと、白洋舎洗濯化學研究所の横山鹿之亮氏の所へ、福岡から、「ス・フ」が「コホロギ」に食べられて困ると云ふ通信が入つた、其被害物と蟲を送つてもらつた處、蟲は「エンマコホロギ」*Gryllus mitratus* Burmeister. であつた。「ス・フ」が蟲に食べられることに就きての、生理學上の問題は別として、年と共に「ス・フ」の蟲害を聞かされることが、次第に多くなつてくる。

蟲害を如何にして除くかと云ふことは、吾々に課せられた問題であるが。男子の國民服まで制定せられ、近く婦人の國民服も亦、制定の運びにならんとしつゝある今日、今少し「ス・フ」を丈夫にすることの研究が先決問題であると思ふ。而して、即今、吾々に課せられた研究の目標は、國策資源の保持が重點でなくてはならぬ。(山田記)。